「私と新聞」親子作文コンクール

入賞作品紹介①

◆◆

福島民報社が「読む 知る 学ぶ『E!新聞』プロジェクト」の一環として行った「私と新聞」親子作文コンクールでは、家族で新聞を読む楽しみ、新聞にまつわる思い出などを伝える作品が数多く寄せられた。最優秀賞、優秀賞の作品を紹介する。（本文と受賞者名は5面に掲載）

◆◆

【小学生「子の部」最優秀賞】

「家族と新聞」

会津若松市・日新小6年（現会津学鳳中1年）
塩野（しおの） 桃花（ももか）さん 12

冬休み。朝食を食べた私は、ゆっくりと新聞を読む。私だけの「新聞時間」だ。

私が新聞を読む時には、すでに家族が読み終わっている。ざっと新聞に目を通すと、家族の読みあとが残っている。母の好きなページ。父の好きなページ。そして私の好きなページ。

「この記事の意味は分からないな」

そう思った私は、家にいる母に意味をたずねる。

母はすばらしい。私が分からない記事や意味を説明してくれる。私に分かるようにていねいに。時には、母とともに真けんに語り合うこともある。いっしょに笑うこともある。

私にとって、新聞は知識の宝庫であるとともに、家族と語らうことのできる時間「家族と新聞時間」を作る大切なものである。家族の読みあとが残り、新聞時間を作ってくれた「今日」の新聞に感謝をしたいと思う。

新聞をじいちゃんの席に置く。じいちゃんがみーちゃんの頭をなでて誉めてくれる。

「継続」は新聞がもたらしてくれた恩恵だ。新聞取りはもはや手伝いというよりも仕事となった。「ありがとう」の言葉が報酬だ。字もゴンちゃんのユーモアもまだ読めないが、いつか新聞を読める日が来ることを信じている。

【小学生「親の部」最優秀賞】

「みーちゃんの新聞取り」

三春町 橋本（はしもと）由香里（ゆかり）さん 41

みーちゃんは特別支援学級に通う小学校一年生。夏休みの毎日の目当ては「新聞取り」の手伝いをすることに決めた。

わが家の新聞受けは、急な坂道を百メートルほど下った所にある壊れた電子レンジだ。つかまらない蝶やトンボを追いかけて、なかなか戻ってこない時もあった。寒い冬を迎えた今は「ママ、時間測ってて」と頼まれる。およそ三分弱だろうか、息を切らして新聞を取ってくる。ズボンのおしりに付いた雪が、凍った坂道で転んだことを物語っている。

読む 知る 学ぶ E!新聞